



満を持して、初の首都圏向け試飲イベント



群馬県の地酒イベントが、ついに東京に進出—群馬県酒造協同組合(柳澤光雄理事長)が主催する首都圏向け試飲イベント「ググッとぐんまの地酒祭り」が、5月13日の夕べ、東京都文京区の椿山荘で開催されました(後援:群馬県/椿山荘他)。東京を舞台にした同県の本格的試飲会はこれが初めて。当夜は、500名を超える日本酒ファンが一堂に集い、テイasting&群馬の食材を使ったオリジナルメニューの立食buffetを楽しみました。

● 県を挙げての協力体制

「群馬県の酒造業界では、これまで地元の各都市を会場に地酒フェスタを年2回続けてきたが、『このへんでマンネリを破ってみたい。どうせやるなら東京でやろう』ということで、この会を企画した。群馬県も地場産業振興の一環としていろいろ支援していただいたし、JR東日本高崎支社や群馬テレビ、上毛新聞などからもご後援いただいている。これでようやく念願の首都圏進出を果たすことができた」(群馬県酒造協同組合の牧野需要開発委員長)と、文字どおり県を挙げての開催となった今回のイベント(会費:1人5000円)。会場では、県下の蔵元20社が出展して元気いっぱい自慢の銘酒をサービスし、群馬地酒の魅力と、日ごろ研鑽した酒造技術の精華をアピールしました。





● 被災蔵元の日も早い復興を祈って

イベントの初めに挨拶した群馬県酒造協同組合の柳澤理事長は「爛よし、冷やよし、常温でもよし。いま一番面白い群馬の酒の味を、心行くまでご堪能ください」と述べるとともに、東日本大震災で被災した蔵に向けて「一日も早く復興されることを祈る」とお見舞いの言葉を贈りました。

続いて、茂原璋男・群馬県副知事の挨拶を挟み、地元出身の企業家・吉川廣和氏（DOWA ホールディングス(株)会長）が乾杯の発声。参加者一同、大震災の暗いムードを吹き飛ばすように力強く唱和して、宴の幕を切って落としました。



群馬の地酒で乾杯！

（上の写真左から、柳澤理事長、茂原副知事、吉川会長）

● 群馬地酒のチャリティー販売や募金活動も

中央に各蔵元のブースを集め、その周りに椿山荘特性のオリジナルメニュー（赤城和牛や湯葉こんにやくなど群馬の食材を使用した料理）を並べた会場では、好みの銘柄を求める参加者が熱気いっぱいの試飲風景を展開。会場の一面には東日本大震災の被災蔵元のための募金箱が設置されたほか、売上の一部を中央会の義援金口座に寄付するチャリティー販売も実施されました。



被災蔵支援活動も

また、会の途中には、出展蔵の日本酒や県の特産物などが当たる抽選会が行われ、椿山荘を運営する藤田観光(株)の末澤和政社長も飛び入りでスペシャル賞品をプレゼント。同社の系列ホテルの宿泊券やダイナー券など、豪華な賞品が参加者に当たるたびに、会場からは盛んな歓声が上がっていました。



宿泊券が当たった！